

ヘブル人への手紙 第12章 1節

「こういうわけで、このように多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いているのですから、私たちも、いっさいの重荷とまとわりつく罪を捨てて、私たちの前に置かれている競争を忍耐をもって走り続けようではありませんか。」

苦難のなかにある信仰の兄弟姉妹に届ける真実がある。それが、先の時代を歩んだ信仰の人々である。数えきれない証人がいる。証人は神の出来事の証言者である。また、証人は殉教をも意味する。神に与えられた信仰のゆえに命をおとした者たちも多くいる。その証言の数は数えきれない。そして、この手紙が書かれた遥か後の時代も延々と証人はうまれている。

その証人が雲のように私たちを取り巻いている。当時手紙を受け取った者たちの空に無数の雲が流れていた。今日この手紙を受け取っている私たちの空にも無数の雲が流れている。時を越え、場所を越えて流れる雲。それと同じように神の証人たちが私たちを取り囲んでいる。神の導きで信仰の旅をした者たちの証言が私たちを取り囲んでいる。

ですから、直面するすべての重荷とまとわりつく罪を捨てて、与えられた信仰の旅を忍耐して歩み続けようと勧める。孤独走ではない。無数の同伴者がいる。そして、罪からの解放者、主がおられる。

2024年2月3日